

“医学生，研修医のために”

—先輩と語ろう!! 男女共同参画シンポジウム— 報告



大分県医師会男女共同参画委員会
委員長 谷口邦子

去る平成24年10月6日(土) 15時より16時半まで大分大学医学部臨床中講堂において初めての学園祭との共催ということで研修会が開催された。

秋晴れの良い天気で，近くのグラウンドでは学園祭のいろんな催しが開催されていた。事前に大分県医師会報や大分合同新聞，各郡市医師会の連絡網，大分大学のメーリングリストなどを通じてPRしていただいたが，連休ということもあって，人の集まりがいまいちだったという気がした。

最初に委員長挨拶として「男女共同参画委員会」に名称を変更したこと，会の成り立ち，今までの活動を説明した後，トークセッションとして「先輩たちの歩む道～つづけるために」というテーマで大分大学女性研究者サポート室長松浦恵子先生の講演と，ゲストとしての大分大学医学部総合診療部・消化器内科平下有香先生と同総合内科学第三・呼吸器科山末まり先生と実際の経験談をお話していただいた。

女性医師の割合が増加している昨今，30歳代の女性医師の就業率の低下(離職の増加)・・・モチベーションの低下・・・復職への不安が地域医療崩壊との関連に至っている。

つまり女性医師の力を活かすことが必要である。大分大学では女性研究者サポート室を設立している。大分大学の実情や他大学の様子をお話していただいた。

お二人の先生はそれぞれの医師となったきっかけ，結婚したきっかけ，現在の生活の様子，今後の希望など，学生さんたちに分かりやすく，興味深く話していただいた。

講演後のディスカッションでは診療科を選んだ理由，パートナーへの希望，仕事へのモチベーションの維持の仕方，男性医師と結婚してよかったこと，もめたことなど具体的な質問が多かった。

さらに経済的な自立，家事を共同でやること，子供の成長を見る幸せ，大学院が時間的には両立させやすい，定年後抱える問題など問題が大きく広がり，「女性医師の問題は単に女性の問題ではなく，男性にとっても，社会にとっても大事な問題であり(男女共同参画)」，今後は地域医療も含めて抜本的な解決策を講じることが望まれる。

坂田県病院局長(病院事業管理者)，笹原県医療政策課課長補佐，大分合同新聞社の帆足氏など日頃お世話になっている方にも同席いただき，実りある会であったと思う。

来年は場所，スケジュールなどを工夫し，さらにたくさんの方が集まっていただけるように計画をしたいと思うので，皆さん方のご協力をお願いします。